

# 日本人女性の乳がん検診マンモグラフィに死亡率減少効果のエビデンスはない —ブレスト・アウェアネスとリスク層別化乳がん検診に基づく次世代乳がん検診への期待—

静岡がんセンター乳腺画像診断科 | 植松孝悦



日本人女性に対する検診マンモグラフィの死亡率減少効果のエビデンスは存在しない。欧米のデータによる乳癌死亡率減少効果をその科学的根拠とする論理は、日本人女性に対する乳がん検診を考える場合において、論点のすり替えと考えるべきである。日本の次世代乳がん検診はブレスト・アウェアネスを土台とし、リスク層別化乳がん検診を導入することで乳癌死亡率減少効果のある、受診率の高い、適切な乳がん検診に変貌する可能性がある。

There is no evidence to reduce breast cancer mortality in Japan so far even though Japan screening mammography has started since 2000. Those who say that screening mammography is right due to establishing the evidence in Western countries are misleading Japanese women into trusting evidence to reduce breast cancer mortality by screening mammography in Japan. Screening mammography is not suitable for Japanese women because of their high rate of dense breasts. The next-generation Japan breast cancer screening program should introduce breast cancer awareness campaign for improving their breast cancer literacy and a risk-stratified breast cancer screening including ultrasonography so that it may become an optimal program based on scientific evidence with decreasing breast cancer mortality and high screening participation rate.

## ● はじめに

乳癌死亡率減少効果が科学的に認められ、乳がん検診として推奨できる検診方法はマンモグラフィ単独法と言われている<sup>1)</sup>。乳癌死亡率減少効果は、抗癌剤をはじめとする乳癌治療技術の進歩による影響も考える必要がある。乳癌死亡率減少効果の貢献度を抗癌剤などの乳癌治療の進歩と検診マンモグラフィによる早期診断の効果で比較した米国の研究では、乳癌治療の進歩が63%、検診マンモグラフィ受診による乳癌早期発見効果が37%の貢献度であったと報告されている<sup>2)</sup>。つまり、検診マンモグラフィの定期受診は、乳癌の早期発見による救命効果

として明らかな乳癌死亡率減少効果をもたらすことは欧米人女性に対して科学的に証明されている。そして、実際にわれわれがお手本とした欧米先進国では、1980年頃に検診マンモグラフィを導入してから約10年後過ぎ頃の1990年初頭より、リアルワールドの疫学データでも乳癌死亡率減少効果がみられており、その死亡率減少効果は現在まで持続している<sup>3)</sup>。しかし、日本人女性に対する検診マンモグラフィの死亡率減少効果のエビデンスは存在しない。日本では既に対策型検診マンモグラフィが施行されて23年経過しているが、乳癌死亡率は未だに増加している<sup>4,5)</sup>。欧米のデータによる乳癌死亡率減少効果を日本人女性の検診マンモグラフィ推奨とする科学的根拠にする論理は、20年以上実施しているわが

国の乳がん検診の死亡率減少効果が見られない事実から論点のすり替えであることに気づく必要がある。特に科学者でもある、われわれ乳がん検診の専門家医師はプロフェッショナルオートノミーに基づき、乳房画像診断のモダリティ別の特性を理解していない疫学者の不適切な論理の影響を受けることなく、自らの専門的判断で現代を生きる女性の利益のために科学的根拠に基づき、次世代乳がん検診の必要性について発信し、その実現化に向けて取り組む必要がある。

日本の乳がん検診は、欧米のデータで乳癌死亡率減少効果が唯一証明されている検診マンモグラフィを40歳以上の女性に対して2年に1回施行するという画一的な方法を推奨している。しかし、既に検診マンモグラフィを施行して23年